

大学図書館における 情報リテラシー教材の作成・評価支援ツールの設計

Design of Tools to Support the Design and Evaluation
of Information Literacy Materials Provided by University Libraries

駒崎 知永理*, ** 鈴木 克明***, * 江川 良裕***, * 平岡 斎士***, *

Chieri KOMAZAKI*, ** Katsuaki SUZUKI***, * Yoshihiro EKAWA***, * Naoshi HIRAOKA***, *

熊本大学大学院社会文化科学教育部 教授システム学専攻*
東京大学法学部研究室図書室** 熊本大学教授システム学研究センター***

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University*
Faculty of Law Library, the University of Tokyo**
Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University***

＜あらまし＞ 大学図書館における情報リテラシー教材の作成・評価を支援するために、「チェックリスト」、「ワークシート」、「クイズ」、「解説文」の4つのコンテンツを含む支援ツールの開発を行っている。本稿では、支援ツールの開発状況、今後の課題及び展望について報告する。

＜キーワード＞ 大学図書館 情報リテラシー インストラクショナルデザイン 教育評価

1. はじめに

現在、多くの大学図書館では、主に学生を対象として、情報検索や文献管理の方法などを教える情報リテラシー教育が行われている。

しかし、大学図書館が行う情報リテラシー教育は、効果的・効率的・魅力的にデザインされているとは必ずしもいえない。特に、効果については、スキルの獲得までを保証せず、知識の伝達にとどまっている教育実践も多い。これは、教育評価も含めた教授設計が十分に行われていないということであり、原因としては、(1) 司書の養成課程において教育工学のような教え方に関する科目ではなく、大学図書館員は教授設計のプロとは限らないこと、(2) 人事異動によって情報リテラシー教育に長期間携われるとは限らず、学習機会が制限されることなどが考えられる。

学生などに確実にスキルを修得させるためには、そのための教授設計スキルが必要になる。しかし、大学図書館員向けの教授設計スキルに関するトレーニングツールや、情報リテラシー教材の作成・評価、そして改善を支援するための具体的なツールは、いまだ開発されていない。

2. 目的

本研究では、大学図書館員がインストラクショナルデザイン（以下、ID）の考え方を用いて、教

材の作成・評価、そして改善ができるようになるための支援ツールの開発を行う。なお、本研究における教材とは、同期型教育（対面教育など）で使用する教材ではなく、非同期型教育の教材、つまり、学生の独学を支援するための教材（媒体は問わない）を指す。単に ID の見取り入れた教材の作成支援を行うのではなく、現在の知識習得型教材からスキル習得型教材への転換を促すためのツールを開発する。

本稿では、この支援ツールの設計に関して報告を行う。

3. 支援ツールの構成

支援ツールは、「チェックリスト」、「ワークシート」、「クイズ」、「解説文」の4つのコンテンツで構成されている。

まず、「チェックリスト」とは、既存の教材を評価し、改善の糸口をつかむためのものである。作成に当たっては、大学図書館が抱える問題点を念頭に置きつつ、『教材設計マニュアル』（鈴木 2002）の「教材改善のためのチェックリスト」72項目を参考に、項目の加除や変更を行った。新たに追加した項目は、学習目標の立て方や、教材の評価方法に関する項目、学習意欲を高める工夫に関する項目などである。これらの項目は、「学習目標」、「評価方法」、「教授方略」、「教材改善」、

「学習意欲を高める工夫」の5つに分類し、前4つをコア項目（表1）、最後の「学習意欲を高める工夫」をオプション項目として位置付けた。

次に、「ワークシート」とは、新規あるいは既存の教材の内容や設計等を整理するためのものである。ワークシートの項目は、チェックリストの項目に準じている。

次に、「クイズ」とは、知識を詰め込む言語情報ではなく、応用力を問う知的技能のクイズのことであり、教授設計スキルを身に付け、チェックリストやワークシートを正しく使うためのトレーニングツールという位置づけである。例えば、チェックリストに学習目標についての項目があった場合、学習目標の立て方にに関する知識やスキルがなければ、そもそもチェックリストを使いこなすことができない。知識やスキルが不十分な者には、クイズと以下に述べる解説文をトレーニングツールとして活用してもらい、チェックリストやワークシートを使うための専門的な知識やスキルを学んでもらうこととした。

最後に、「解説文」とは、これまでに挙げたチェックリスト、ワークシート、クイズの利用をサポートするものである。チェックリストの項目から専門的なトピックを抜き出して大学図書館員向けの解説を作成し、クイズと併用してトレーニングツールとして、あるいはチェックリストやワークシートを使う際の参考資料として活用できるものを作成する。

4. 考察と展望

チェックリストやワークシートといった実務的なツールだけでなく、トレーニングツールとしてのクイズを追加したことによって、支援ツール全体の効果がより発揮できるのではないかと考えている。一方で、複数のツールがあることによる使用者の負担感も想定されるため、使用負荷を下げる（特に、トレーニングツールの学習量の調整）ことやツールを活用してもらうための動機づけの工夫について検討することが課題である。

今後は、支援ツール案を完成させた後にWebツール化し、プロトタイプの作成を行う。そして、教育工学の専門家と大学図書館員による形成的評価を実施する予定である。

今まで、大学図書館員向けの教材の作成・評価、そして改善を支援するためのツールはなかったため、支援ツールを開発することで情報リテラシー教育に携わる大学図書館員の不安を軽減することが期待できる。また、この支援ツールによって、知識習得型教材からスキル習得型教材への転換が促され、効果的・効率的・魅力的な独学用教材が増えるならば、従来の大学図書館が行う正課外の情報リテラシー教育を正課内（例えば、反転授業における自宅での学習）へと位置づけるきっかけにもなると考えている。

参考文献

鈴木克明（2002）教材設計マニュアル：独学を支援するために。北大路書房、京都、pp.172-175

表1 チェックリスト（案）の一部

	大分類	小分類	チェック項目
コア	学習目標	学習者分析	学習者分析やニーズ分析を行ったか？
		学習目標の設定	学習目標は、「目標行動」の形で記述しているか？
			学習目標には、「評価条件」も明記されているか？
			学習目標には、「合格基準」も明記されているか？
	評価方法	評価方法の検討	前提テストはあるか？前提テストを実施しない場合は、前提となる知識やスキルを明示しているか？
			事前テストはあるか？事前テストを実施しない場合は、不要と判断した理由を説明できるか？
			事後テストはあるか？（カーカバトリック4段階評価のレベル2）
			事後テストは、学習目標を達成したことが分かる内容になっているか？
	教授方略	教材の構造の分析	課題分析を行ったか？
		教材の情報提示・指導方略	教材の導入部分に、学習目標及び教材の使い方の説明はあるか？
			事後テストの前に、練習の機会を与えたか？
	教材改善	教材の形態の選択	教材の形態の特性を踏まえた上で、適切だと思う形態を選択したか？
	教材改善		学習者が一人で学習できる教材になっているか？
			形成的評価を実施あるいは予定しているか？
			アンケートを実施しているか？（カーカバトリック4段階評価のレベル1）
			フォローアップ調査を実施あるいは予定しているか？（カーカバトリック4段階評価のレベル3）